

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 24 No 5

274号

平成28年 5月 6日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

熊本地震

院長

4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とする大地震が発生し、益城町で震度7を観測した。続いて4月16日1時25分、再び益城町と西原村で震度7(マグニチュード7.3)を記録した。マグニチュード7.3は1995年の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)と同規模であり、かつて九州地方では未経験の大地震で、大きな被害をもたらした。

はじめに、今回の地震で被災した方々にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

熊本地震を考える前に、まずはCLINIC NEWSから東日本大震災の記憶を呼び起こしてみます。「3月11日(金)14:46 予防接種の最中に、突然の轟音と、とてつもない大きな揺れが。あまりの大きさに覚えていないけど、時間も長く、立ってられないほど。患者さんたちの大きな悲鳴も飛び交う状況。たまたまクリニックにいた4組の家族とともに、スタッフは抱き合いながら余震のなかで冷静に対応。被害の大きさが気になっていったけど、停電でテレビも見れず、もちろん携帯もつながらない。暗くなるに連れて、不安が大きくなり、家に帰れないと訴える家族も。少し落ち着いた時期を見計らい、2階の院長室へ。1階のクリニックよりもひどい揺れでメチャクチャ。スチール本棚が、イスにぶつかり壊れていた。もし自分がいたらと思うと。ご主人が迎えに来るといって患者さんを夜10時まで預かり、スタッフも病院で一夜を明かした。」

仙台では宮城県沖地震の備えて耐震化などの対応を行っていたため、家屋倒壊による人的被害は少なかった。一方熊本地震は直下型で、最大加速度が阪神淡路大震災の約2倍であり、多くの家屋が被害を受けた。死者49人、行方不明者1人、家屋倒壊による死亡は7割強を占めた。1回目の地震後に自宅に戻り、2回目被害に遭われた方も少なくはなかった。住宅では、全壊2,252棟、半壊2,763棟となっている(5月2日消防庁)。もう一つの特徴は、未だに続く余震である。東日本大震災でも余震の度に、大きな地震が来ると不安を募らせたことが思い出される。この余震の規模と頻度は従来の経験とは異なり予測不能との見解があり、4月末までの有感地震は1,000回を超え、震度3以上は337回を数えた。住宅の被害や余震に対する不安による避難者は4月末でも25,000人を超え、車

中避難者が多いのも特徴だ。

東日本大震災とは比べることができないが、当初は震災と同様に様々な混乱が見られた。九州地方は大地震の経験も少なく、必ずしも事前の対策や準備が充分ではなかったと伝えられている。その後は震災の経験が活かされ、震災を経験した自治体から被災者支援の担当者が派遣され、次第に物流も順調になった。初期からDMATを含めた医療支援活動が開始され、震災の経験がここでも活かされ診療体制が確立されている。また、熊本市内の総合病院では病院機能が維持できなくなったが、他県の病院も含む周辺の医療機関の協力によりスムーズに転院等が図られたとも伝えられている。

仙台市医師会では、4月20日に災害対策部担当理事が熊本市医師会に医療支援物資を届けた。空路広島に向かい、広島で大量の物資を購入し熊本までレンタカーで運んだ担当理事のバイタリティと使命感は尊敬に値する。

さて、自分は何ができたのだろうか。東日本大震災で我々のモチベーションを上げてくれたのは激励や感謝のメールであり、それが医療支援や診療所早期再開に結びついた。「大丈夫でしたか?」「被害はありませんでしたか?」、加えて「クリニックが開いていると聞いて安心しました」等々である。そのような経験から、被災地の友人知人には、激励と心配のメールを送った。また、震災時の情報発信の有用性を伝えることと、震災時に何を考え、どう行動したかを知ってもらうため、東日本大震災時に発信したブログ「こどもクリニック四方山話」をFacebook等で紹介した。2日後にはクリニックに「熊本地震義援金箱」を設置し、皆様のご厚意による義援金(12,306円)を28日に日本赤十字社に送ることができた。さらには、会長を務める仙台小児科医会から、熊本県小児科医会に20万円の義援金を送った。

さて、これから被災地のために何ができるだろうか。義援金、ボランティアもいいかもしれない。愛知県大村知事は、「イベントなどを自粛するくらいなら、熊本の酒を買って宴会をする方がよっぽど応援になる」と述べている。被災地に赴くこと、被災地産物の消費・購入など何でもいい。先日息子夫婦が帰省した時、早速熊本県産のスイカを購入した。

最後に、震災時のCLINIC NEWSの文末を引用する。「日本の明るい未来のため、思いやりの心を持って、手と手を取りあって、一人一人ができることを考えてみましょう。小さなこと、少しのことかも知れませんが、皆が協力すれば、きっと大きな力になることでしょう。未来を信じて、自分たちができることをすぐにでも実行に移しましょう。」

『がんばろう!熊本 がんばろう!日本』、皆さんも何ができるか考えてみてください。



5月のお知らせ

- ・医学部学生実習
27日(金)
ご協力をよろしく申し上げます。
- ・栄養育児相談
11、18日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料
- ・休診案内は2面に

『がんばろう!熊本 がんばろう!日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は7通のメールをもらいました。最近は患者さん専用アドレスに限らず、クリニックF.Bページにもコメントがたくさん寄せられています。F.B.は誰でも読めますので、是非ご覧ください。今回はプライバシーにかかわるものが多かったのですが、まずは松島町の金子さんからのメールです。赤ちゃんから通っていて、性格もしっかり把握している14歳の男の子です。「川村先生、スタッフの皆様、今日は〇が大変お世話になり、有り難うございました。仕事の都合上、付いて行けず、御手数をおかけし、申し訳ありませんでした。初めは「ストレスとかじゃない？大したことないよ〜」と受け流していたのですが、昨夜、〇が「1ヶ月前から時々痛いんだ…」と、かなり不穏そうに訴えてきたので、「川村先生に診てもらっておいで。そうすると安心するでしょ。」と話したら、「うん。そうする！明日行って来る。」と言うもので、今日、診ていただいた次第です。やっぱり川村先生に「大丈夫！」と仰っていただいて、すっかり安心したようで、昨夜の暗い顔は何処へやらといった感じです。本当に有り難うございました。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。」。メールにあるように自分で決めて、わざわざ1時間近くかけて受診しました。当然のことながら診察上異常はありませんでした。医師の一言とクリニックの雰囲気ですっかり安心できたようです。これがかかりつけの役割ということを改めて認識できたエピソードでした。ありがとうございます。

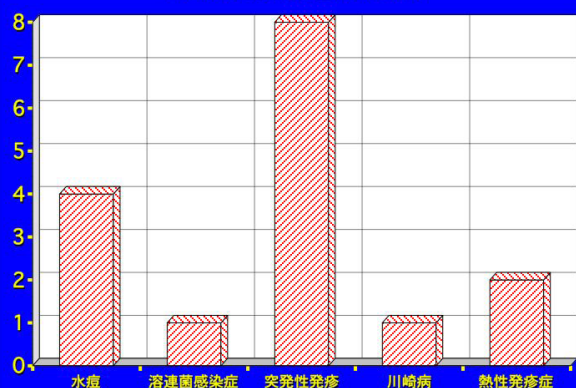


続いては、名取に転居した小〇さんからのアレルギーの相談です。他の医療機関との関わりから匿名にしました。「こんばんは。〇〇の母です。先日は診察ありがとうございました！長引く熱にずっと心配していましたが、先生の丁寧な説明で安心して子どもの経過をみれました。13日あたりからまた二人とも鼻水と咳が出始め、たまたま19日に〇〇の滲出性中耳炎の経過の診察で耳鼻科に行ったところ、〇〇も鼻水の検査でアレルギー反応がありスプレデルシロップ小児用0.02%、ムコダインシロップ5%を二人とも4週間づつ処方されました。アレルギーの原因は特定してません。確かに〇〇は1年前からアトピーのような肌荒れで皮膚科に通ってますがなかなか痒みが良ならずアレルギーを持っているのが心配してましたが、〇〇は特にまだ何かアレルギーやアトピー等の症状は出ておりません。〇〇は痒みがひどいのでこの処方でも良くなれば…という希望もありますが、まだ子どもで4週間も薬を服用するというのが少し気にはなります。このまま服用を続けてよいものでしょうか？ちなみに今は二人とも咳はなく鼻水のみ出ています。また他病院での診察についての質問になってしまっ申し訳ありませんが、ご返信頂ければ幸いです。」。さて皆さんはどう考えますか。そして、院長の回答は…。「メールありがとう。この質問に関して答えることは難しいところです。今の治療法が間違っているのかでは無く、当院を受診した場合にはどうするのかと小児科の考え方を示します。まず、子どもに長期に投薬する場合は、症状や病気の種類を考えた上で止むを得ず投与することになります。止むを得ずということは、苦痛が強い、他に治療法が無いなどです。通常鼻水がでた場合には、カゼを考えて治療します。アレルギーかどうかを判断するのは、カゼ薬に反応せず長期にわたって続く場合です。鼻水の検査は好酸球を見るもので、直接的な証拠にはなりません。ましてや、初めて治療する場合には、薬の効果も判断しなければならず1週間程度処方します。そのためには時間をかけて説明しています。今回は詳しく説明されたでしょうか。つまりはアレルギーという厄介なものは、最後に考え、止むを得ず投薬するものと考えています。一番重要なことは小児科は、まず子どもを見ながら病気を考えるところです。皮膚科や耳鼻科は病気をしていますが、子どもを見ていないことも多いものです。ですから小児科では不必要な長期投薬は避けるようにしています。婦人科疾患は内科では見てもらわないことと同じで、病気を優先するか子どもを優先するかの違いです。他院の治療に言及することはできません。薬を飲む飲まないまでコメントできないことを理解してください。結局、「餅は餅屋」ということです。」。さてどうなったでしょうか。その後、薬を飲むことを見合わせると報告にきました。まず子どもを見るところから始まるということを理解してもらえたようです。転居しても相談できる、それがかかりつけでしょう。

休診並びに診療時間変更のお知らせ

- ・5月14日(土) 日本小児科学会(札幌)のため休診
13日(金)の診療終了は16:00となります。
- ・5月21日(土) 日本外来小児科学会役員会(高松)のため休診
- ・5月28日(土) 指定都市学校保健協議会(静岡)のため午後休診

4月の感染症の集計



前月おたふく・水痘はいませんでした。再び水痘がみられました。溶連菌感染症は激減し、目立った感染症の流行はありません。グラフには示していませんがインフルエンザも収束傾向です。感染性胃腸炎も減少傾向です。前月に引き続き川崎病がみられ、原因不明の病気で、発熱、発疹、口の変化、結膜充血、頸部リンパ節腫脹、手足の変化の6項目のうち4項目みられるものを川崎病と診断します。冠動脈の合併症がみられることがあり、早期発見と治療が必要です。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、560人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTube、ブログにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

熊本地震では大きな被害が報告されています。東日本大震災を思い出しますが、被災者の苦労は当事者にしかわかりません。果たしてこれまでの震災の経験がどれだけ活かされたのでしょうか。マスコミで取り上げる問題点は、震災と同じことのくり返しです。当事者でない我々には、一体何ができるのでしょうか。小さいことでも、何かひとつでもできることをしてみましよう。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！